

第3回 亀山市総合計画審議会 議事録

開催日時	令和7年10月28日（火） 9：15～11：15
開催場所	亀山市役所本庁舎 3階 大会議室
議事項目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 会長あいさつ 2. 第3次総合計画基本構想（骨子）について 3. 第3次総合計画前期基本計画（骨子）について 4. 今後の流れについて 5. その他
議 事	<p>（事務局）</p> <ul style="list-style-type: none"> • 委員15名中11名の出席により、会議が成立している旨を報告する。 <p>1. 会長あいさつ</p> <p>【会長よりあいさつ】</p> <p>（会長）</p> <ul style="list-style-type: none"> • 亀山市の計画の憲法とも言える総合計画の骨子案である。どのような内容が盛り込まれているのか確認いただきたい。 • まだ諮問を受ける前の段階であるので、思うところ、感じるところについて意見していただければと思う。 • 会議の傍聴については、要綱に基づいて基本的に認めることとなっている。よろしいか。 <p>（各委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> • 異議なし。 <p>（事務局）</p> <ul style="list-style-type: none"> • 本日、傍聴者は無し。 <p>2. 第3次総合計画基本構想（骨子）について</p> <p>（会長）</p> <ul style="list-style-type: none"> • 事務局に説明を求める。 <p>（事務局）</p> <ul style="list-style-type: none"> • 今回の資料は、市議会の9月定例会に提示した資料となる。その内容を事務局から説明させていただく。 • なお、骨子案をもとに、庁内で施策の検討などを行っているところである。審議会に提示する諮問案は、この骨子案から一部修正される場合もある。この点について了承いただきたい。 <p>【事務局より資料説明】</p> <p>（会長）</p> <ul style="list-style-type: none"> • 第2次総合計画では、将来像を「歴史・ひと・自然が心地よい、緑の健都 かめやま」とし、“健都”を前面に示してきた。 • 第3次総合計画の将来像はまだ決まっていないが、どんなまちになったらいいというアイデアがあれば、ここでお示しいただきたい。 • 第2次総合計画の将来像に何を上乘せするかを考えたとき、一つ足りないのは“活力”や“活気”といったもの、あるいは、“やりたいことがここで実現できるまち”といったものが、もっと入ってくると、亀山の良さが出てくるのではないか。

- 資料2の28頁に、第3次総合計画のまちづくりの基本方針を「多彩なつながりで幸福度を高めるまちづくり」と定めている。今回初めて“幸福度”という言葉が出てきた。市としては、これを指標化してさらに上げていくことを目指そうとしているのか。

(事務局)

- ウェルビーイング調査を行い、幸福度を10段階で整理している。
- まちづくりの基本方針の“幸福度”という表現についても改めて整理している途中で、アンケート結果を受けて指標化できないかも含めて検討している。

(会長)

- ここに書き込むと言うことは、指標化するということか。

(事務局)

- 確実にやりますとまでは言い切れない。できないか検討している。

(会長)

- 亀山市では、幸福度を高めるまちづくりを進めて行きますと書かれている。このあたり皆さんはどう思うか、意見を伺いたい。

(委員)

- 幸福度は、健康、安全、緑の豊かさだけではない。事業創造や雇用、買物の場など、これらがしっかりしていないと幸福感はない。
- 将来像を議論しているので、具体的な表現がないことは承知しているが、ここ2、3年商店街をどうしていくのか、働く場をどうしていくのか、そのあたりがすっぱりと抜け落ちているような印象を受ける。

(会長)

- 私が先ほど申し上げたように、“活力”“活気”という部分が弱いのではないかとこの点にも通じることである。

(委員)

- 先週、亀山市の都市計画審議会に出席した。最近、井田川地区の人口が増えている。市の中心部とのつながりをどう考えているのか。都市計画審議会と総合計画はちゃんとつながっているのか。

(会長)

- 総合計画が上位計画となる。

(事務局)

- まちのにぎわい・活力が入ってこない、さらなる幸福度の向上につながっていかない。読み取れない部分があるかも知れないが、考え方としては整理していきたい。
- 都市計画と総合計画のつながりについては、都市マスタープランは総合計画に基づいて整理されていく。1年後に策定する予定であり、そこで整合を図っていきたい。
- ご指摘のように、人口重心が北東部にずれてきている。この点をどう捉えていくかについても整理していきたい。

(委員)

- 自治会の300軒にアンケートしても6割は、現状維持で良いと考えている。
- 市が何でも与えるのではなく、自分たちが自ら考えてやること、みんなでどうしたいかが“活力”だと思う。自分たちは何ができるかを話し合ってやるべきである。自分達で考えないと前進はないと思う。

(会長)

- 主体的に働きかけてコミットしていく、そうしたまちになれば“活力”が出てくる。

(委員)

- ウェルビーイングのグラフ(資料2の5頁)をみると、主観データと客観データが離れているものがある。心の豊かさや幸福度を高めていくというが、住んでいる人はそうは思っていない。情報社会で格差も目にみえてきて、70歳を過ぎても仕事をしないと不安であるなど、そうした人が多い。
- 昔は、地域のために自治会活動をという考えもあり、心の豊かさがあった。しかし、今は、自治会活動はやりたくない人が多い。
- 客観的には心の豊かさを求めているというが、不安を抱えている人が多いのではないか。
- 農村部では少子高齢化が進行し、限界集落化して消滅していく。その部分を見ずに“活力”というのも問題かと思う。施策の変更が必要である。

(会長)

- これまでの延長上でいくと、そういったところは廃れていく。何らかの働きかけが必要である。

(委員)

- 亀山市は自家用車を持たないと住めないまちである。こうした問題を解消するために、都市交通の利便性を高めるのか、あるいは人・コミュニティ自体を移動させるのか。
- 井田川、亀山、関のベルト地帯に人を集積させていく等の思い切った方向性を示してもよいのではないか。

(委員)

- 学校を新しくして欲しいなど、言いたいことはあるが、この場で言ってよいのか。

(会長)

- 亀山市としての方向性について意見を求めている。教育であれば、こどもたちがより生き生きであるなど。

(委員)

- 先日防災訓練をしたが、夏でガラス張りの施設であったのでとても暑かった。ここが防災拠点になるのかと思った。

(事務局)

- 前期の4年間でどうした施策を行うかについては、後ほどの基本計画で説明していく。
- 諮問させていただく中では、教育や子育ての部分でどのような施策に取り組んでいくかについても記載していく。具体的な取り組みについては、事業として実施計画で整理していくことになる。

(会長)

- まず基本構想では、亀山市の将来像をどう描いていくか、次に基本計画では、具体的にどういう計画を立てていくのか、この2段階の計画となる。
- 将来像に関しては、活力、市民の自主性・主体性についての意見が出た。市民の主体性を引き出していくことで幸福度につながっていく、そうした循環が描けるとよい。
- 幸福度という言葉が入っているので、幸福度を高めていくことがミッションになる。指標化していくか、どう設定していくのかについては課題となっている。

(委員)

- 「多彩なつながりで」とあるが、具体的に示してもらわないとわからない。それがどうして幸福度につながっていくのかを示すべき。

- 5万人都市で、雇用や産業政策など大きなことを打てるわけがない。現実的に整理していかないと、どういう計画を作るのか焦点が定まってこない。

(会長)

- 大きな商業施設がないのであれば、鈴鹿市や津市に依存するという考え方もある。

(委員)

- 亀山市の商店街振興については散々やってきたができなかった。市に投資余力がないのであれば、今までできなかったことは施策として整理していくべきである。
- 中山間地域については、村はなくなっていき、空き家になる。夢を示すよりきちっと整理した方がよいのではないか。

(委員)

- 田舎は全国どこも同じである。そこで言われるのは、キーマンになるような活力のある人が欲しいということである。

(委員)

- 私は商店街に住んでいる。19時を過ぎると歩く人もいなくて静かである。
- 駅中心に駐車場が広がり、人口が少なく車でないと移動できないので、お酒も飲めない。飲食店も20時を過ぎると静かである。商店街の活力、なかなか考えられない。
- 静かさを良しとする、そういう方向性もありではないか。

(会長)

- 総合計画の中に記載がないと、施策として事業化されていかないので、商店街について何も触れないわけにはいかない。一応書いておくことは必要である。
- この点は現実的に考えていかないといけない。総合計画が網羅的になることは致し方ない。

(委員)

- 第2次総合計画の評価の中で、商店街に移住で補助金を出すとあったので、どうかと思った。

(会長)

- 各論の話になってきたので、議題を先に進めたい。

3. 第3次総合計画前期基本計画（骨子）について

【事務局より資料説明】

(委員)

- 色々な施策があるが、それぞれの施策について、モデルになるような都市を調査しているのだろうか。

(会長)

- 逆に言えば、亀山市の施策のオリジナリティはどこか。

(事務局)

- 他都市の事例については、それぞれの部署が参考にして取り組みをしている。
- “活力”の話が出たが、第3次総合計画の施策の大綱では、政策の大綱1に活力の部分を持ってきて前面に出している。政策の大綱2が子ども、政策の大綱3が自然の保全・活用であり、全体構成を第2次総合計画から変えている。

(会長)

- 第2次総合計画から第3次総合計画の変化を見た方が良い。計画骨格案（資料2の37頁）の一番右の「変更理由」を見ると、第3次総合計画のオリジナリティが見えて

くる。

- 商工業に観光が入ったほか、市民参加・交流の促進と移住を一体化したなど。

(委員)

- 「豊かな自然」という表現がたくさん出てきているが、その「豊か」が「豊かそう」に変わってきているのではないか。
- 「豊かな自然」は住みたいまちの前提になっているように思うが、動植物は減ってきて外来種が増えている。また生息地も減っている。そうした現実を知る機会が少なかったり、子どもが体験したりする機会が減っている。
- こうしたことを自分事として捉えるようになると良い。

(事務局)

- 政策の大綱3で整理している。動植物の減少や触れる機会の減少ということで、自然環境に触れる機会に関する施策、外来種に対する施策も整理している。

(委員)

- 動植物に関して、市の部局としては環境の部局があるが、川であれば土木の部局、農地・山林であれば農林の部局が絡んでくるので、庁内の所管の連携がより良くなると、さらに良くなる。また、国や県との取り組みも進めていけるような体制が前提の計画であれば良い。

(委員)

- 何年も前から、亀山市は観光も産業もポテンシャルのあるまちと言われ続けてきたが、そのポテンシャルが一向に生かされていない。
- 観光であれば、日本武尊（やまとたけるのみこと）やその妻の弟橘媛（おとたちばなひめ）の銅像を建てただけで終わらずに、神話のストーリーを作って、町全体を歩くルートを作るなどすべきである。知恵を出していただきたい。

(会長)

- 観光を政策の大綱1のまちの活力で整理して、政策の大綱6の多様な交流の促進のところで関係人口を整理している。これらを分けたのは一つの特徴である。
- 生物多様性と野生鳥獣の適正管理も同じ基本施策としてまとめて整理している。これも大きな変化ではないか。

(委員)

- 施策を並べてしまうと、第2次総合計画の反省を踏まえてどうしたいのかがよくわからない。

(会長)

- 第2次総合計画ではここが問題であったので、第3次総合計画ではこうしたいといった説明の方がわかりやすいという意見である。

(委員)

- インフラ整備等は変わらずに進めていかないといけない。そうしたところはある。

(会長)

- 次回以降の審議会で説明をいただく際は、第2次総合計画から第3次総合計画にかけて変更した箇所、力を入れた箇所について、フォーカスして説明いただくことをお願いしたい。

(委員)

- 週末、実家のある湘南にいたが、湘南は活気に溢れている。スポーツも健康も自然も課題は亀山市と被っているが、何十年も前から活気がある。

- 亀山市に移住してきて3年になるが、亀山市で遊ぶとなると、鈴鹿市のイオンに出かけるイメージがある。外に出て行くことを悲しいと思う。
- 提案であるが、バランスの良いライフスタイルのモデル、三世代家族や夫婦だけの家族といった、家族ごとに亀山市内での過ごし方を提示できると、どうやって過ごせば良いのかが分かりやすい。
- 憧れのようなものがあって湘南に人が来ているが、亀山市であれば、自然のある家に住んで、昼はカフェに行き、夏は川で遊ぶといったライフスタイルが示せると良い。
- 素敵な川があるのに、川で遊んでいるのは外国籍の方ばかりで残念である。亀山市の人が川で遊んでいないのは不思議である。

(会長)

- 移住促進のためのPRや発信では、そのあたりを意識した方が良い。都会的な生活ができないから不便だということではなく、亀山だからこそできる暮らし方や過ごし方を前向きに発信していくことが重要である。
- 先週鎌倉市で対談してきたが、鎌倉市は人が来すぎて困っている。
- 亀山市の場合は、亀山に来てほしいわけであるが、観光振興やインフラ整備、外国人ケア等が必要である。
- 亀山市が持っている魅力を伝えるという意味では観光は大事であるが、単に人が来ればいい、お金を落としてくれれば良いでは失敗する。
- 亀山市では豊かに暮らせるなど、亀山市の魅力、プラス要素は何があるか。

(委員)

- 花見等では人がいっぱい来るが、自然の良いところに人がいない。

(会長)

- 基本計画骨格案(資料2の37頁)のとおり、政策の大綱が6本から7本になった。資料の色分けを見るとその変化が分かる。
- 次回以降の審議会では、第2次総合計画から第3次総合計画になり、何がどう変わったのかを説明いただくことにしたい。
- 将来像の部分についても、活力・活気、自主性といった意見をいただいたが、どのように将来像に盛り込んでいくかについて、皆さんにも考えてもらいたい。

(委員)

- ある事業でも、他の事業と一緒にやれば総合的に効果が見込めるところが出てくる。
- 伴走型職員がいるとうまくいくといった移住対策の事例等も目にする。
- 行政経営のところに人材育成、DXの推進とあるが、これを使ってもう少し事業をマネジメントしていく必要があるのではないか。
- 個々の事業はそれぞれの課長のもとで行っているが、別の事業が結びつくとより効果が上がる。秋の行事の日程調整をするだけでも随分と効果が上がる。
- マネジメントを専属でやる組織・人を計画に入れ込めないか。

(会長)

- 民間では、スーパーバイザーという、横断的に色々な部署を調整するような役職がある。役所にはそうした役職はないのか。

(委員)

- 市がやろうと思えば、現在の人と予算でできる。思い切ってチャレンジするようなことを考えて欲しい。

(会長)

- 資料1の107頁に、「職員の定年が65歳に引き上げられることに伴い、」とあるが、

これは確定していることか。

- この5年間の方は、かなりフレキシブルに動くことができるのではないかと思う。

(事務局)

- 年金の支給開始年齢の引き上げに合わせて、職員の定年が延びている。

(会長)

- 「経験やスキルを生かせる配置や環境を整備する必要がある。」とあるので、そこは可能性があるように思う。

(委員)

- 民間でも大企業になれば60歳で役職定年する。どう生かすか。老害の問題も出てくる。

(会長)

- 施策の内容については次回以降の審議会で議論していきたい。

4. 今後の流れについて

【事務局より資料説明】

(事務局)

- 11月10日開催予定の第4回審議会において、条例に基づき、市長から審議会へ諮問を予定している。基本構想と基本計画が諮問の対象となる。実施計画は諮問の対象ではない。
- 第4回審議会では基本構想及び基本計画の一部（政策の大綱1～3）を、第5回審議会では残りの基本計画（政策の大綱4～6及び行政経営）と重点プロジェクトを、それぞれ審議いただく予定である。
- 第6回審議会では、第4回・第5回の意見を踏まえた総括審議を予定している。
- 第7回審議会では、審議会から市長への答申をいただく予定である。
- 審議の進行状況により、本スケジュールも変更となる可能性もある。
- 審議会での審議のあとは、1月にパブリックコメント、1～2月に最終案の作成を行い、3月の定例議会へ関係議案を提出するスケジュールとなっている。

(会長)

- 11月はタイトなスケジュールとなるが、中身の議論を進めていきたい。

(事務局)

- 次回の日程は11月10日、9:15から本庁舎3階の委員会室で行う。
- 議事録を事務局で作成する。発言者は非公開とする予定である。
- 議事録は、委員の皆様を確認の上、公開させていただく。
- これをもって、第3回亀山市総合計画審議会を閉会させていただく。

以上